

## Review of *Major to Minor* for a Japanese Publication

### ● メジャー・トゥ・マイナー / シンディ・スコット

シンディ・スコットはテキサス州ヒューストンで活躍中のジャズ・シンガー。シンディは歌唱力抜群で、ヒューストンでも評判になっている。シンディに贈られた数々の賛辞を見れば、ピッチとタイミングの素晴らしさにふれている人が多いが、なるほど実に安定感のある歌唱力でエモーショナルに多彩な感情を表現するシンガーである。

このCD『メジャー・トゥ・マイナー』はシンディのデビュー・アルバムだ。彼女がヒューストンの有名なジャズ・クラブ“セザンヌ”で共演しているジャズ・ミュージシャンたちとレコーディングされている。ピアノのポール・イングリッシュはディジー・ガレスピー、アーネット・コブなど、トランペットのデニス・ドットソンはバディ・リッチ、デビッド・ニューマンなど、サックスのウッディ・ウィットはレイ・チャールズ、ブランフォード・マルサリスなどと共演歴があり、シンディのデビュー・アルバムでくり広げられるジャズのレベルの高さもうなずける。

シンディは音楽一家に生まれた。最初はクラシックのフルートを学び、音楽奨学金でルイジアナ州立大学へ進学。在学中にドイツへ留学して、ジャズと出会った。そして、シュバルツバルトの黒い森として知られるブラック・フォレストのジャズ・セラーで歌い始めている。帰国後、大学のビッグ・バンドで歌うようになった。さらに、彼女はサウス・キャロライナ大学へも通い、その大学のビッグ・バンドでノース・シー・ジャズ・フェスティバルへ出演した。大学卒業後は、ヒューストンを拠点として本格的なプロ活動を行なっている。ドイツ留学中の共演者のひとりトーマス・ガンサー(シカゴ・ジャズ・アンサンブルのピアニスト)が、当時ジャズ・ボーカルを始めたばかりのシンディについて「経験豊富なジャズ・シンガーのようだった」と語っているが、シンディは天性の才能の持ち主なのだろう。 (text by NNC)